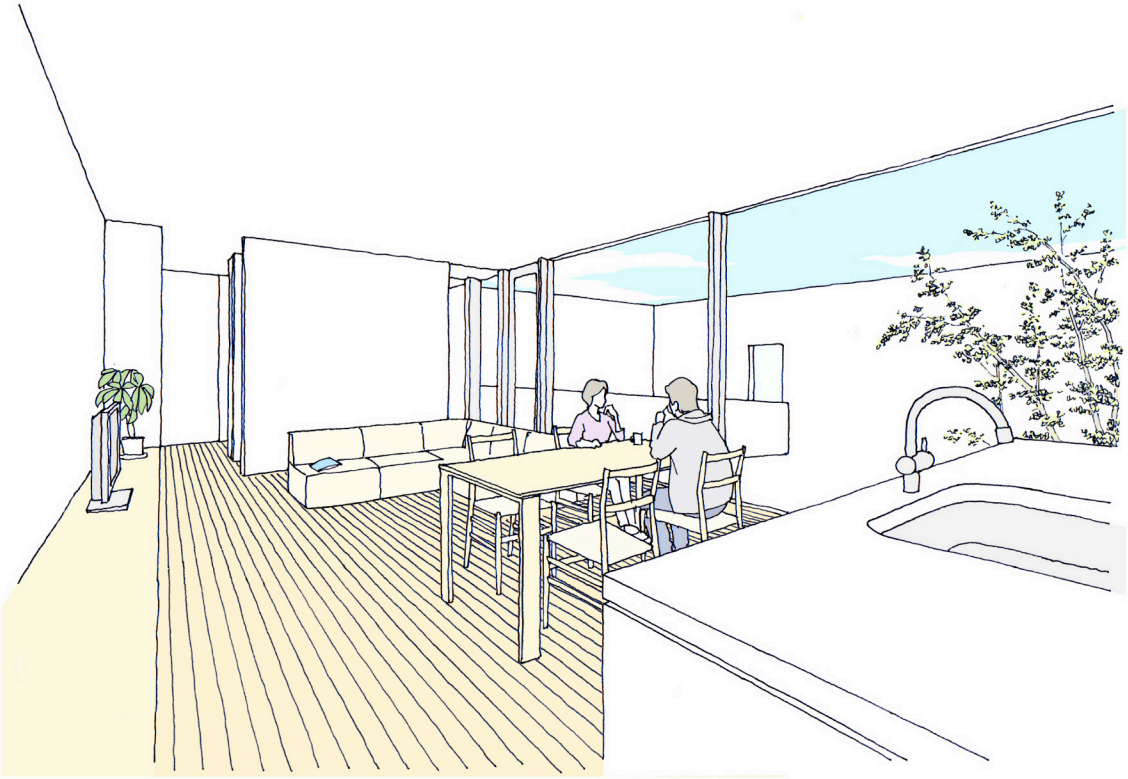
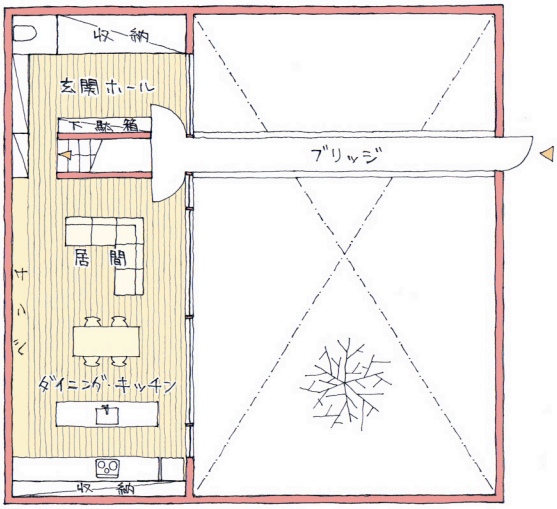


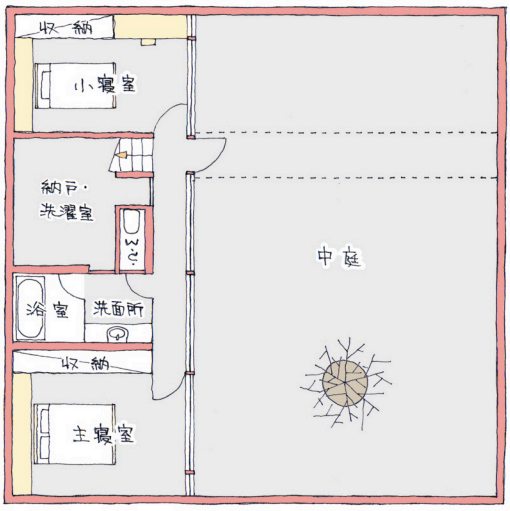
庭形式の恩恵を享受してガラスによる透明感のある作りとなっていますが、それでは丸見えで落ち着かないという方にはブラインドを下ろしてもらえれば問題ありません。

通路の突き当たりがこの家の最深部、主寝室となります。小寝室に比べるとかなり広いため、簡素ではあるものの印象はずっと贅沢です。多数のクローゼットや造りつけのドレッサーが用意されており、設備面ではかなり充実していると言っていいでしょう。この部屋は中庭の底に位置しているため二階に比べて光の変化は控えめになっていますが、正面にシンボルツリーを臨んでおり、季節ごとに移り変わる緑の変化を楽しむ事が出来ます。

では、いよいよ中庭に出てみましょう。既に想像されていると思いますが、この中庭はプライベートな領域である下階に属し、二層分の高い壁にも囲まれているため印象はややひんやりしており、寝室に付随した空間として少人数で楽しんで頂くのがふさわしいと考えています。寝室からデッキチェアを出して読書をしたり、木陰で午後のひとときを過ごしたり、大空間を占有する贅沢を大いに楽しんで頂けるといいのではないでしょうか。



1階平面図



地下1階平面図

なお、夏向けの応用として考えているのが、中庭全体に5cm程度の深さで水を張ってしまうというアイディアです。中庭自体はもともと排水の対策を行うので、栓に少し工夫をすれば逆に水をためてしまうことも難しくありません。中庭一面に水を張った状態は目に爽やかなだけでなく、実際に建物の躯体から熱を奪う役目も果たしてくれるでしょう。水面に写る光と影は、上空を飛ぶブリッジの効果も一層引き立ててくれる筈です。もし愛犬がいれば、水張った中庭に放してやり、ひとときのバカンス気分を楽しむのも悪くありません。

終わりに

ドラマチックな贅沢さが魅力の「ブリッジの家」ですが、現実の計画では敷地の地下水位が高く、この形式は向いていないことが判明し、別の案が実施されることになりました。先の例で言えば少しの運が足りなかったということになるのでしょうが、これを不運だと考えていても始まりません。いつかより適当な条件に出会えることを信じて、今回はこのようなプレゼンテーションの形にまとめてみました。

安藤忠雄氏も運に恵まれたプロジェクトがあった一方で、実現しないプロジェクトを幾つも抱え、何十年も提案を繰り返したことがあったと聞いています。建物のアイディアだけでなく、長丁場に耐え抜きいつか夢を実現させる、そんな粘り強さも見習って行きたいものです。